



●やんばる国立公園インタープリテーション全体計画●

第2回ワークショップ【やんばる全体編】 ワークショップ通信！

発行 | 環境省やんばる自然保護官事務所 2025 年 10 月

みんなで創る「やんばるの魅力の伝え方！」

～やんばる国立公園インタープリテーション全体計画の策定について～

環境省では、やんばるの魅力をもっと多くの人に伝え、やんばるをもっともっと楽しんでもらうために、「やんばる国立公園インタープリテーション全体計画」という“やんばるの物語を綴ったメッセージブック”を地域の皆さんと一緒に作っています。

01. インタープリテーション全体計画(メッセージブック)の目的

インタープリテーション全体計画では、やんばるならではの物語(ストーリー)を明文化するとともに、来訪者にどのように体験してもらうのが望ましいかを明らかにすることで、来訪者や次世代にやんばるの価値や魅力を効果的に伝え、理解と感動を深めます。

これにより、やんばるの国立公園・世界自然遺産の自然を守りつつ、地域にとっても望ましい形での利用を推進し、やんばるの地域活性化につなげることを目指します。

■地域の価値(ストーリー)の明確化と共有

やんばるの自然、暮らし、文化、歴史、人などの資源をつなぎ、国立公園のなりたちや価値を伝える「物語(ストーリー)」を明らかにします。この物語を地域全体で共有することで、来訪者に伝えるべき共通の基本メッセージが定まり、関係者(ガイド、案内施設の職員、観光・宿泊施設事業者を主とした住民全て)が一体となって質の高い情報発信ができるようになります。

■効果的なコミュニケーションの設計

物語(ストーリー)を「いつ、どこで、誰が、誰に、どのように」伝えるべきか(5W1H)を地域における伝え手となる方々と一緒に整理し、展示や印刷物、野外サイン、体験コンテンツ、お土産、食事メニュー等々のすべてのインタープリテーション活動を包括的かつ体系的にまとめます。

地域側で統一感のある発信をすることにより、やんばるを訪れてくださる方々に「忘れられない、唯一無二の感動や体験」を提供し、やんばると来訪者に特別なつながりを形づくることを目指します。

■保護と利用の好循環

地域の価値を伝えることで、なぜその自然や文化を守る必要があるのかが利用者に理解されやすくなり、保護・保全への意識を高めます。

守るべき場所やルールが明確になり、地域振興と資源保全を両立させるための具体的な手段となります。

■地域主体の活動と人材育成

計画策定のプロセスを通じて、地域住民が地域の価値を再認識し、地域ならではの魅力を自発的に語り、伝える主体の育成(インタープリターの育成)を促します。

また、エコツーリズムを活かした地域活性化を目指す際の基盤となる考え方や行動指針を提供します。

■2026年4月には、環境省ホームページ等で公開→WEB 画面上から誰でも自由にコピーできるよう計画中→随時、細かな修正やデータの更新を予定。

■2026年5月頃を目途に、冊子を印刷し、行政機関、観光・宿泊関連施設、教育機関等々及びワークショップ参加者の皆さまへ配布を予定しています。

02. 第2回ワークショップ【やんばる全体編】の開催概要

2025年10月6日(月)、大宜味村農村観光改善センターにおいて、やんばる内外26名の皆さまにご参加いただき第2回ワークショップ【やんばる全体編】を開催しました。

テーマに沿った4つのグループに別れて、第1回ワークショップで出てきた、「やんばるの顕著な価値」をヒントに、テーマ文やサブテーマ文(案)を作成し、案に沿ったインタープリテーション手法のアイデアや来訪者像を踏まえた体験や表現、手法について意見交換を行い、方向性をまとめました。

参加者は、事務局が、第1回ワークショップ結果をもとに作成した4つのテーマ文(案)・サブテーマ文(案)を見て回り、それぞれの(案)に対する①**抜け**:新たに追加したい価値やテーマ ②**違和感**:案の文章に対するズレや表現の修正 ③**改善点**:より伝わる内容、表現への修正、提案 ④**オススメ**・小ネタ:オススメのスポットや自分自身の体験やエピソード、小ネタなどをポストイットに書き出して追加していききました。

次回(第3回)は、いよいよ最後のワークショップとなります。まだ知られていないやんばるの魅力を多様な視点で掘り起こした素材やテーマ文(案)・サブテーマ文(案)をもとに、文字やイラスト、写真等で表現しながらやんばるの新しい物語(やんばるインタープリテーション全体計画)を創るため、構成案や個性的でより伝わりやすい表現などを検討し、やんばるの魅力をもっと多くの人に伝え、やんばるをもっと楽しんでもらうために「やんばる国立公園インタープリテーション全体計画」の骨子を形づくりします。

今回が、新しいやんばるの未来への第一歩です！
やんばるの未来は、私たちの対話から始まります。

●プログラム●

テーマ | 語る方法を創る！

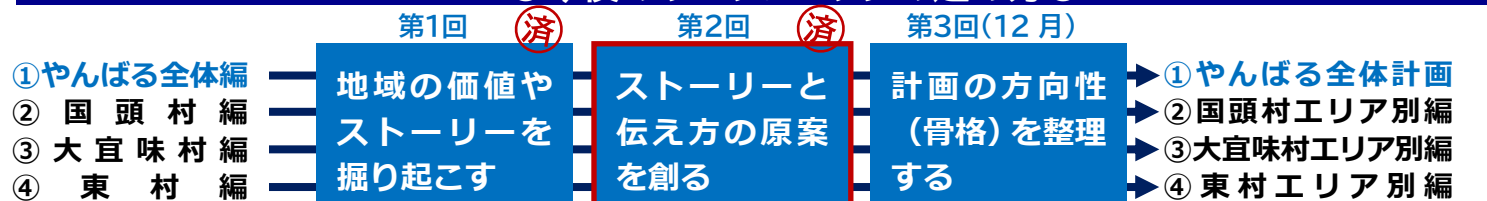
～ストーリーとインタープリテーションのかたち～

セッション1 価値+テーマ文レビュー
セッション2 どんな人にどう伝える？

●ワークショップの様子●



●今後のワークショップの進め方●



※やんばる全体編の第3回は12/1(月)に開催予定です。

ワークショップの詳細、次回参加申込は↓



環境省 やんばる自然保護官事務所
住所 沖縄県国頭郡国頭村字比地 263-1
TEL 0980-50-1025 (担当:田中)
E-MAIL KUNIHICO_TANAKA@env.go.jp

やんばるインタープリテーション全体計画に関わる情報や案内はこちらからご覧になれます！



■セッション 1:価値+テーマ文レビュー

事務局が作成した4つのテーマ文(案)とサブテーマ文(案)に対して、①抜け:新たに追加したい価値やテーマ ②違和感:案の文章に対するズレや表現の修正 ③改善点:より伝わる内容、表現への修正、提案 ④オスス
メ・小ネタ:オススのスポットや自分自身の体験やエピソード、小ネタなどをポストイットに書き出して追加しました。これらのご指摘を元に事務局でテーマ、サブテーマを練り直しています。

●テーマ区分 | 自然そのものの顕著な価値●

①テーマ(事務局素案)

この島だけの固有種が息づく森、太古の石灰岩の山々や雲霧林、サンゴ礁やマングローブ林、そして天の川がきらめく夜空は、生命の進化と地球の営みを示し、生命の物語を語り続けている。

②ワークショップでの指摘

- 固有種はこの島だけに決まっている
- 山々は石灰岩だけではない
- 雲霧林は観光利用してほしくない場所なので外してほしい



③新テーマ案(事務局検討過程での仮案です)

豊かな雨が潤す森には固有種が息づき、マングローブやサンゴ礁とともに独特な生態系が築かれている。そして太古の昔から現在までも、天の川がきらめく夜空は生命の営みを見守り続けている。

④サブテーマ(事務局素案)	⑤ワークショップでの指摘(抜粋)	⑥新サブテーマ案(事務局検討過程での仮案です)
1 億年から数千万年もの太古の昔に、深い海で堆積した砂や泥が、紆余曲折を経てやんばるの土台を成し豊かな森を育んでいる。	■やんばるに広く分布する付加体だけをイメージしていたが、石灰岩の岩体も含めたほうがいいと指摘あり	2億5千年から数千万年もの太古の昔に、深い海で堆積した砂や泥、遠くの海のサンゴ礁の岩石が、紆余曲折を経てやんばるの土台を形成し豊かな森を育んでいる。
島の歴史とともに進化した多くの固有種を育むやんばるの森。その命の声は夜の森に響き、あるいは密やかに芽を出し、今も私たちに発見されるのを待っている。	■声が響くのは夜だけではないのでは ■大陸から切り離されたのが琉球弧の中でも古く、生物の進化が独特 ■肉食獣がいなかったことで進化した特異な生き物たち	琉球弧の中でもより古い時代に大陸から切り離されたやんばるでは、多くの生物が独特な進化を遂げた。森から聞こえるその声、垣間見えるその姿は、途方もない時間の積み重ねの証である。
太古の石灰岩の断崖や雲霧林を抱く山々に、恵みの雨が染み込み、急流の川が海へと落ちる。この山そのものが水がめとして、人々を含む全ての生命を潤していく。	■山々を作るのは石灰岩だけではない ■雲霧林は与那覇岳9合目以上になるので観光利用してほしくない領域であり、記述しないほうがいいのでは	亜熱帯照葉樹林にたなびく朝霧、突然のカタバイ、森を震わす台風。恵みの雨は森を潤し土壤に染み込み、川の流れとなりやがて海へ流れ出す。やんばるの森そのものが水がめであり、人々を含む全ての生命を潤している。
やんばるの森の岸辺に育まれたマングローブ林とサンゴ礁は、無数の小さな生きものが息づき、人々が糧を得る場所としても大切な、水辺の共同レストラン。	■共同レストランという表現が安っぽい ■人々が糧を得るというのは暮らしの話ではないのか ■ようするにやんばるは森だけでなくマングローブもあり海も豊かです、ということを伝えたい	森や川のその先にはマングローブがあり、サンゴ礁の海がある。マングローブは森からの栄養分を受け取り、過剰な流出を抑えつつ海へと手渡す。サンゴ礁は健やかな森やマングローブに支えられて豊かな生態系を育んでいる。
朝靄や積乱雲、カタバイの雨に虹、そして漆黒の夜空に天の川、南十字星。やんばるの空は、大気と光と闇が織りなすシンフォニーを静かに奏でている。	■星空のことに絞ったほうがよいのでは ■南十字星が見えるのは一部地域なので地域 IP 計画にいれたらどうか	あたりまえにある夜の暗さが夜空を照らし出す。森から響く生き物たちの声、静かに寄せる波音、天の川が美しく横切る満天の星空は太古から現在までもやんばるの自然をやさしく覆い包んでいる。

●テーマ区分 | 自然と人の暮らしや生業に関わる顕著な価値●

①テーマ(事務局素案)

シヌグやウンガミの祈り、芭蕉布や草玩具の手仕事、パイナップルやシークワサー畑、林業や漁業の営みは、自然の恵みと共に生きる知恵を紡ぎ、人と自然の調和を育んでいる。

②ワークショップでの指摘

- 自然への信仰心
- 旧暦
- 行事などがある
- 信仰心を『うむい』という
- 歴史が抜けている
- 蔡温(さいおん)
- 廃藩置県



③新テーマ案(事務局検討過程での仮案です)

長く受け継いできた自然へのうむいが日々の暮らしに刻まれ、自然の恵みと共に生きる知恵となり、人と自然の調和を未来へと育んでいる。

④サブテーマ(事務局素案)	⑤ワークショップでの指摘(抜粋)	⑥新サブテーマ案(事務局検討過程での仮案です)
やんばるの暮らしは森や川や海と地続きにあり、庭先にヤンバルクイナが歩き、浜辺にはウミガメが産卵に訪れる。人の営みと自然の営みが隔てなく重なり合い、日常の中に生態系の鼓動を響かせている。	■日常の中に自然の豊かさを感じられる資源がある ■ヤンバルクイナやウミガメだけが大切ではない	やんばるの暮らしは目の前の森と海、川とともにあり、恵みを手仕事をとおし活かし、自然の中の豊かな生態系の一部の中の私として生きていることを実感させる。
やんばるの集落は石垣やフクギ並木に囲まれた家並み、ムラ墓やアシムイに守られ、シヌグやウンガミをはじめとする祈りの祭りなど、自然と人との調和を祈りながら、共同体の絆を、世代を超えて結び直している。	■シヌグやウンガミの祈り →シヌグやウンガミは自然に対する感謝の祈り、畏敬の念が含まれる	やんばるのむらは先祖から受けとった自然と共に暮らすための知恵に囲まれ、自然への感謝と畏敬の念を、祭祀を通して世代を超えた絆とともに未来へつないでいる。
芭蕉布や草玩具の手仕事は、風土に根ざした素材を巧みに生かし、自然との共生の知恵を形に変え、暮らしの中で息づく文化として人々の心を結び続けている。	■紅型もある ■草玩具→草編みのほうがよい?	芭蕉布や草玩具の手仕事は、風土に根ざした素材を巧みに生かし、自然との共生の知恵を形に変え、暮らしの中で息づく文化として人々の心を結び続けている。
パイナップルやシークワサー畑は、赤土や気候といった土地の特性を活かし、果実の恵みを育みながら、人と自然が響き合う豊かな食文化を紡ぎ出している。	■シークワサーは昔芭蕉布を洗うものだった	やんばるの个性的で自然豊かな大地が、森からの恵みや畑仕事を支え、豊かな食文化とを紡ぎつづけている。
森を育て炭や木材を生み出す林業、海の恵みを分かち合う漁業は、資源を守りながら利用する知恵を体現し、人と自然が共に生きる姿をいまに映し出している。		やんばるの広大な森や豊かな海を大切な資源として守りながら活かし、それらが人々の仕事や財産となっている。

●テーマ区分 | 住民同士の関係性に関わる顕著な価値●

①テーマ(事務局素案)

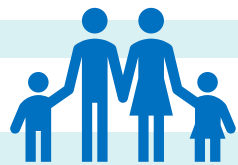
共同売店で助け合いや玄関先に置かれる野菜、畑に立つ高齢者の姿、長寿を支える食文化は、人と人が支え合い、世代を超えて健やかな暮らしを築いている。

②ワークショップでの指摘

●やんばる住民の人間性 ●主語と述語がちぐはぐ ●観光でなく移住・定住希望者に向けた地域の姿の紹介

③新テーマ案(事務局検討過程での仮案です)

「ゆいまーる:分かち合いと助け合いの心」は農作業の協働や地域をつなぐ共同売店を生み、心温かな関わり合いと畑の豊かな恵みが人々の長寿の源となっている。



④サブテーマ(事務局素案)	⑤ワークショップでの指摘(抜粋)	⑥新サブテーマ案(事務局検討過程での仮案です)
共同売店は、物を売り買いする場であると同時に、人々が助け合い支え合う心を育む場所であり、地域の暮らしを結びつける絆の拠点として息づいている。	■共同売店は、現在こう表現できるか？→共同店ビジターセンター ■観光案内所よりも生のホットな情報が聞ける場所？ ■望まれる来訪者体験:共同売店で買い物をして地元の方と会話する ■地域の絆を深める場でもある ■地域を支え、地域に支えられる共同売店 ■その土地の昔話を聞けるステキな場所	地域の人々が出資して営まれる共同売店は、かつては村(区または字)の暮らしを支える拠点であり、今も地域の人々をつなげる場として、また来訪者が地元の生活者と出会う窓口として生き続けている。
家の玄関先に野菜や果物がそっと置かれる風景は、贈り手の心が受け手に届く瞬間であり、日常に根ざした優しさが地域をあたため続けている。	■来訪者はこれを追体験できない→ここに載せる意味は？ ■シブイ、バナナ、パッションフルーツ、パイナップル、ナーベラー(ヘチマ)、モーイ、ゴーヤー、シークワサー、パパイヤ ■畑に立つ人が育てているイメージができる野菜	かつて、稲刈りやきび刈りを手伝い合った「ゆいまーる」の精神は、畑の実りや獲れた魚を分け合う豊かさや優しさ、集落のみんなが知り合いという結びつきと共に、今も人々の心に息づいている。
野草や果実が並ぶ食卓や、昔ながらの郷土料理は、自然の恵みを人々が分かち合う知恵であり、健やかな暮らしを育み長寿を支え続けている。	■野草は今のやんばるの人は日常的に食べていないのでは？ ■やんばるの自然の恵み	人々の長寿を支えるのは、やんばるの土と水が育む多彩な野菜と果物、近くの海で獲れた小魚が並び、泡盛が場を和ませる昔ながらの食卓。その食と畑作りは丈夫な体を作り、泡盛を交えたゆんたく(おしゃべり)は心をほどこいてゆく。
畑に立つ高齢者の背中や、子どもを見守る地域のまなざしは、世代を超えて暮らしを結び、未来へと命の力を手渡している。	■年はとっても子供の頃のヒエラルキーは変わらず年上優先 ■昔は稲刈り、きび刈りで助け合う「ゆいまーる」があった、その助け合いの精神は今も残る ■ミニデイ(デイサービス)に人を集めるのが大変(皆が元気すぎて)	(2■3 番目のサブテーマ文に含めました)

●テーマ区分 | 訪問者の過ごし方に関わる顕著な価値●

①テーマ(事務局素案)

民泊や地域住民とのゆんたく、森と川と海をめぐる体験は、訪れる人と地域の人が自然を介して出会い、心をつ結びながら新しい時間を創り出している。

②ワークショップでの指摘

【修正文案】やんばるの人、文化、自然に触れることが、土の人と風の人の心をつ結び、新しい時間を作り出している 【含めるべき事項】素通り、短時間では感じられない、長期滞在で分かるやんばるの価値を伝えたい
【含めるべき事項】やんばるならではの時間の流れ(新しい時間) 【違和感】訪問者→来訪者 伝統芸能という言葉に違和感がある(伝統芸能を入れればという意見に対して)

③新テーマ案(事務局検討過程での仮案です) ※本テーマ区分は「望まれる来訪者体験」として整理することも検討中

やんばるに暮らす人々に迎えられ、世界の宝である森・海と全身全霊で深くつながるほどに、自然と人と密につながる生の豊かさを実感する



④サブテーマ(事務局素案)	⑤ワークショップでの指摘(抜粋)	⑥新サブテーマ案(事務局検討過程での仮案です)
集落内の民宿や民泊では、手づくりの料理やゆんたくでの交流を通じて、住民の温かさや世代を超えて受け継がれた暮らしの知恵の奥深さに触れる。	■含めるべき事項:来訪者や移住者を受け入れる姿勢がある ■含めるべき事項:祭りを通じて聖なるものを敬う心 ■関連事項:おばあのかめーかめー 何でもくれる！ ■修正文案:集落内の民宿、民泊では、手作り料理や住民との交流を通じて、村人の温かさを受け継がれてきた暮らしの知恵の奥深さに触れる。	森に抱かれた集落での宿泊やゆんたく(交流)で流れる時間を通して、来訪者を柔らかに受けとめるやんばるの人間性と、受け継がれてきた暮らしの知恵を体感する。
森に息づく固有種を観察し、地域に受け継がれた祭りや工芸にふれる体験は、自然と文化の深いつながりを伝え、訪れる人に学びと気づきをもたらす。	■違和感:固有種→生き物、動植物など(固有種だけではない) ■違和感:自然、アクティビティと歴史文化でサブテーマを分けた方がよいのでは ■違和感:「工芸」に違和感。日常生活の中で使う道具などでは。工芸的な魅力はあるが ■違和感:「森に息づく固有種を観察し、」の表現がその後の文と違和感。 ■含めるべき事項:修正文案】自然を尊ぶ祭りが今も生活の中に息づいている ■含めるべき事項:修正文案】自然に捧げられてきた祈りの空間を訪れることで新たな気づきが生まれる ■含めるべき事項:星空のこと ■関連事項:4 月はヤマモモ、秋はカニ、12-1 月はキノコを採りに行こうか。	自然に捧げられた祈りの場を巡り、自然を尊ぶ祀りに加わり、自然と共にある生業の歴史と今に触れることで、豊かな自然と人のつながりの本質に気づく。
森を抜け、川に遊び、海に漕ぎ出す体験は、自然の連なりを身体で感じさせ、訪問者と地域の人と共に時を重ねる新しい物語を創り出している。	■違和感:新しい物語はむしろ祭りに来訪者、移住者を受け入れるなかで生まれているのでは。 ■違和感:共に時を重ねる新しい物語がしっくりこない。自然体験より祭りや工芸の方なのでは。 ■関連事項:辺戸の水をシュリオウフの正月の若水に使う(ウビナリ) ■関連事項:辺戸の集落案内	多様な生物の気配に満ちた奇跡の森と川■海■星空のひとつつながりをガイドと共に体験し、うちなんちゅも驚くほどの濃厚な非日常に身をひたす。

■セッション 2 :どんな人にどう伝える？

やんばるを訪れる①来訪者像の属性や興味関心・動機をグループ毎にいくつか割り当て、②来訪者に合ったテーマや伝え方を自由に話し合い、伝え方は、今できることもこれからできるとよいことも含めて考えました。

①来訪者像	②来訪者に合ったテーマや伝え方の例
ひとり旅	■森林セラピー、アーシング
若者グループ	■学びの森や森林公園でキャンプ ■自然体験(やんばるの森と川と海を遊び尽くす、マングローブカヤック秘境ツアー ■宇佐浜などで漂着物回収ボランティア
シニア層	■共同売店等、地域の人の直接の声を聞くような場所(感動が伝わる)
沖縄県民	■県中南部と違う風景(例えば森、滝、集落) ■やんばるでしか食べられないもの、旬の食べもの(例えばハイケイ) ■県民の水がめである6つのダム(辺野喜ダム・普久川ダム・安波ダム・新川ダム・福地ダム・漢那ダム)
女性グループ	■植物(花)、香り、食(ローカルスイーツ、コーヒー等) ■1人時間、宿(静かな非日常)、ブランコやベンチ、子育てにつながる何か ■看板やサイン、パッケージなどのデザインを統一できるとよい
ファミリー層	■都市部にはない自然の豊かさ、生物多様性(生きものたちの豊かな個性とつながり) ■子供、大人、それぞれの立場での目線の違いを感じる ■自然環境保全の意義、環境倫理等
カップル・夫婦	■自然の中での小さな冒険、2人だけの思い出づくり ■何もない時間をゆったりと過ごす
サステナブル志向	■環境保全の具体的な取組(例えば EV、E-BIKE による移動等)
自然体験 エコツーリズム志向	■ガイドツアー(世界自然遺産) ■自然体験(サイクリング、釣り、鳥、星空観察、湖面 SUP、トレッキング等) ■祭り、祭祀
アクティビティ 冒険志向	■沢登り、スノーケリング、キャンプ、トレッキング、マングローブカヌー、サバニ、ネイチャーツアー、ナイトネイチャーツアー
スローライフ 癒し志向	■祭り、祭祀、民具作り ■海辺でサンセットを見る・食(笑味の店、カッターカフェ、旬の野菜購入)
文化・歴史探訪志向	■アスムイハイクスのストーリーを伝える ■15世紀末から続く文化歴史、戦跡を知る ■山と水の生活博物館(民泊農家ガイド付き)、奥やんばるの里(民族資料館)、アスムハイクス等
全体として	■来訪者の生活につながるメッセージを伝えることが重要 ■現地の私たちと来訪者との関わりの中で伝えていきたい ■地域内での伝え方(インタープリテーション)も重要

インタープリテーション全体計画をどうつくり、どう使う？

●やんばる(国立公園)をもっと楽しく、もっと大切に！●

やんばる地域の魅力を伝える「インタープリテーション計画」づくりは、やんばる(国立公園)に来た人たちに、ただ景色を見たり通り過ぎるだけでなく、その場所の自然や文化、歴史、生活や人に興味を持ってもらい、「なるほど!」「すごい!」と感動し、やんばるを大切にしようという気持ちや行動につながるよう、伝え方や体験の場を工夫する取組です。

●計画づくりで大切なこと●

計画を進めるには、地域の方々と一緒に話し合い、以下のことを明確にしたいと考えています。

- ①目指す姿(ビジョン)
- ②伝えたい価値や物語
- ③誰に来てほしいか(利用者像)
- ④どんな体験をしてほしいか
- ⑤どこで、どうやって情報を発信するか

こうした話し合いの流れを通じて、単なる情報提供ではなく、やんばる(国立公園)の「物語を共有」することができます。これは、地域の誇りを高め、おもてなしの心を育み、観光の魅力を大きく高めることにつながります。

●計画づくりのメリット●

この計画は、法律で義務付けられたようなものではないため、柔軟に、素早く内容を見直すことができます。ワークショップ(参加型の会議など)を通じて地域の関係者が積極的に意見を出し合い、活発な連携が生まれます。計画づくりを通じて協力のネットワークができ、目指す姿を共有し、新しいプロジェクトが生まれるといった相乗効果も期待できます。

●計画実現で期待される効果●

- ①パンフレット、案内板、ウェブサイトなど、情報発信に統一感が生まれる
- ②自然体験プログラムの質が向上する
- ③地域全体で国立公園の価値を伝える体制ができるなど

このインタープリテーション計画は、地域の声を活かしてボトムアップで進めるものであり、計画の内容だけでなく、地域の人みんなで作り上げるプロセスそのものが非常に重要です。この「やんばるインタープリテーション全体計画」づくりを通して、地域の特性を活かした、魅力的な自然体験を提供することを目指します。

●ワークショップ振り返りシートより(まとめ)

①あなたにとって『やんばるらしさ』を表すものは何ですか？

参加者の皆さんから、やんばるを象徴する大切なものがたくさん挙げられました。

【分類】	【キーワード】
自然・環境	→世界で唯一の豊かな森(イタジイの森、川、山、海、静けさ)、固有種の宝庫、星、様々な光景(朝・昼・夜・雨)
文化・暮らし	→人々の暮らしと自然が密接に結びついているところ、歴史、信仰、やんばるにある多様なものすべて
感覚・価値	→個性、やさしさ・おもいやり、色、山と海が重なる風景
伝えるべきもの	→恵みをもたらしてきた森、自然・人・暮らしのつながり

【特に多かった声】

「単なる自然の景色だけでなく、そこに住む人々の暮らしや歴史が自然と一体になっていることこそが、やんばるの最大の魅力だ」という意見が多く出されました。

②ワークショップをふりかえって、どんな気づきがありましたか？

話し合いを通じて、やんばるの魅力を伝えることの難しさや、今後の希望について多くの意見が寄せられました。

【伝えることの難しさと重要性】

- やんばるの価値を伝えるテーマ文を決めるのは本当に難しい。もっと深く話し合いが必要です。
- 素通りでは体験できないことの方が多い。一つずつ時間をかけて体験してもらうことが大切。
- 参加者それぞれの経験や出身地の違いから、色々な角度の意見が聞けて面白かった。
- 伝えたい価値を共通の言葉(共通言語)にして、どう伝えていくか深めることが重要だと改めて実感した。

【地域への想いと誇り】

- 自分が住む地域への誇りや愛のような思いが詰まった時間だった。
- 参加者全員が、やんばるの魅力を感じ、伝えたいという強い思いを持っていることが分かった。

【今後の課題と提言】

- この場に来れない地元の方々の声、特に地域の祭祀などオープンではない文化を持つ人たちの意見も集めた方が良い。
- 戦争や基地といった、この地域特有の難しいトピックも、伝えるべき物語のテーマになり得る。
- 外部の人向けの PR だけでなく、それを支える地元住民の暮らしを守ることや、住民の気持ちに配慮することが一番大切だ。
- 今回集まった人のように、やんばるの自然を守ろうという志のある人たちが、現実的につながっていけると素晴らしい。